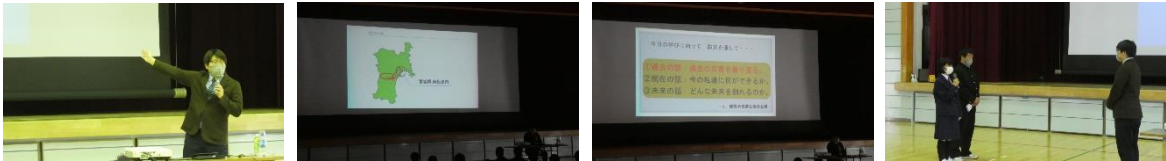




防災教育 第1弾 講演会

27日（木）、中学生1・2年生と高校生（2部制）が集まり、防災スクール事前講演が実施されました。東日本大震災で被災した講師 雁部那由多（東北学院大学4年生）氏をお迎えし、「被災地から未災地へ 防災から未来を見つめる」を演題に50分間のお話を聞きました。3年生は修学旅行後に録画された動画を視聴しました。中学生代表の終わりの挨拶は、2年岩中咲妃さんが感想を含めて気持ちを伝えました。生徒達の感想を代表して1年石川菜那さんの感想文を一部紹介します。



講演会で語り部の方が東日本大震災での経験を時間や場所、当時の行動や気持ちなども詳しく教えてください、また写真も用いられていて、その当時の情景を想像することができました。私たちは津波やとても大きい地震も経験したことがなく、昨年の震度5の地震が今までに体験した中で1番大きな地震でした。～

語り部の方が実際に経験したことや、「たった数秒で命が助かるか、助からないかが変わってしまう」と聞き、津波がとても恐ろしくなり、それと同時に勝手に自分とは遠い存在・架空の存在のように思っていたのが現実になり、また自分の身に起こるかもしれないのだと気づくことができました。

私はこれまで津波が来ると、残った人々は家がなくなり、きちんと生活できないことや身内の人が亡くなってしまった悲しみが大きく、全員がそうだと思っていたけれど、“大切な人を助けられなかった・助けなかった自分の無力さ”をととても痛感し、その辛さが大きかったと聞き、「確かにもしかしたら自分が手を伸ばすと助かっていたかもしれないと分かったと罪悪感も残り、余計辛かったらう」と思いました。

私たちは今まで地震や津波に関して“どのようなことがあったか、どのくらいの被害が出たのか”などの学習はしてきたけれど、実際に経験した方に直接聞くことは無かったので、当時の気持ちや経験も知ることができ、とても良い経験となりました。

今は津波などの体験が無いので、知識としてしか頭に入っていないですが、その知識を活かし自分や大切な人の命を守ることができるようになりたいです。まず私たちにできることは、避難準備はもちろんですが、語り部の方が最後に言った「一日一つ思い出を作り、当たり前を大切にすること」なので、日々楽しみながら1日1日を大切にしていきたいです。

第2弾 防災スクール

28日（金）、第1学年が「地震体験車 ごりょう君」による地震体験と株式会社貴志さんが来校され、「きいちゃんの災害避難ゲーム」を実施しました。



映像を観ながら地震を体感しています。



避難場所の運営についてグループで考えました。

